

令和3年度入試（令和2年度実施）の情報開示  
解答例について

入試の区分	一般選抜（前期日程）
学部学科等	理・工・都市デザイン学部
教科・科目名	数学 / 数学(理・工・都市デ)
正解・解答例 又は出題 (面接)意図	(解答例) 別紙のとおり
備 考	

略解

1

(1)

$N = abba_{(4)}$  より,

$$\begin{aligned} N &= a \times 4^3 + b \times 4^2 + b \times 4^1 + a \times 4^0 \\ &= 65a + 20b \end{aligned}$$

また,  $N = ccc_{(6)}$  より,

$$\begin{aligned} N &= c \times 6^2 + c \times 6^1 + c \times 6^0 \\ &= 43c \end{aligned}$$

よって,  $65a + 20b = 43c$  が成り立つ. ここで,  $65a + 20b = 5(13a + 4b)$  より,  $43c$  は 5 を因数に持たなければならない.  $43$  は 5 を因数に持たないので  $c = 5$  でなければならない. したがって,

$$13a + 4b = 43$$

が得られる.  $43 - 4b$  は 13 の倍数より  $b = 1$  である. したがって,  $a = 3$  となる. このとき,  $N = 43 \times 5 = 215$  となる. 以上より,  $a = 3$ ,  $b = 1$ ,  $c = 5$ ,  $N = 215$  である.

(2)

$w = \frac{z-1}{z+i}$  より,  $(w-1)z = -1-wi$ .  $w = 1$  とすると,  $0 = -1-i$  となり不適. よって,  $w \neq 1$  であり,

$$z = \frac{-1-wi}{w-1}$$

が得られる.  $|z| = \sqrt{2}$  より,

$$\left| \frac{-1-wi}{w-1} \right| = \sqrt{2}$$

この式を整理すると,

$$|w-2+i| = 2$$

(計算過程省略)

以上より,  $|z| = \sqrt{2}$  上を動く時,  $w$  は点  $2-i$  を中心とする半径 2 の円周上を動く.

(3)

$I = \int_0^{\frac{\pi}{6}} e^x \sin x dx$ ,  $J = \int_0^{\frac{\pi}{6}} e^x \cos x dx$  とおく. 部分積分法を適用すると,

$$\begin{aligned} I &= \int_0^{\frac{\pi}{6}} (e^x)' \sin x dx \\ &= [e^x \sin x]_0^{\frac{\pi}{6}} - \int_0^{\frac{\pi}{6}} e^x \cos x dx \\ &= \frac{1}{2} e^{\frac{\pi}{6}} - J \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} J &= \int_0^{\frac{\pi}{6}} (e^x)' \cos x dx \\ &= [e^x \cos x]_0^{\frac{\pi}{6}} + \int_0^{\frac{\pi}{6}} e^x \sin x dx \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} e^{\frac{\pi}{6}} - 1 + I \end{aligned}$$

よって,

$$I = \frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}-1}{4} e^{\frac{\pi}{6}}$$

略解

2

(1)

$0 < \theta < \pi/2$  において  $dx/d\theta = \cos \theta > 0$  より, この区間で  $x$  は  $\theta$  について単調に増加する関数である.

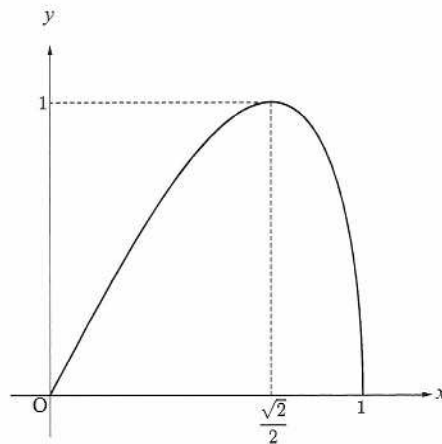
$$\begin{aligned}\frac{dy}{dx} &= \frac{dy/d\theta}{dx/d\theta} \\ &= \frac{2 \cos 2\theta}{\cos \theta}\end{aligned}$$

$dy/dx = 0$  のとき,  $\theta = \pi/4$  ( $x = 1/\sqrt{2}$ ) である. また,  $0 < \theta < \pi/4$  ( $0 < x < 1/\sqrt{2}$ ) のとき,  $dy/dx > 0$ ,  $\pi/4 < \theta < \pi/2$  ( $1/\sqrt{2} < x < 1$ ) のとき,  $dy/dx < 0$  である.  $0 < \theta < \pi/2$  において  $dx/d\theta \neq 0$  であるので

$$\begin{aligned}\frac{d^2y}{dx^2} &= \frac{d}{d\theta} \left( \frac{dy}{dx} \right) / \frac{dx}{d\theta} \\ &= \frac{-2 \sin \theta (2 \cos^2 \theta + 1)}{\cos^3 \theta}\end{aligned}$$

よって,  $0 < \theta < \pi/2$  ( $0 < x < 1$ ) において  $d^2y/dx^2 < 0$  である. 増減表は以下のようになる.

$\theta$	0	...	$\pi/4$	...	$\pi/2$
$x$	0	...	$\sqrt{2}/2$	...	1
$dy/dx$		+	0	-	
$d^2y/dx^2$		-	-	-	
$y$	0	↗	1	↘	0



(2)(a)

曲線  $C$  上の点  $(x, y)$  は  $0 < \theta < \pi/2$  より

$$y = \sin 2\theta = 2 \sin \theta \cos \theta = 2x\sqrt{1-x^2}$$

で表すことができる. したがって, 直線  $y = px$  と曲線  $C$  の交点  $(\alpha, \beta)$  は

$$\alpha = \sqrt{1 - \frac{p^2}{4}}, \quad \beta = p\sqrt{1 - \frac{p^2}{4}}$$

で表される.

(b)

$0 < \theta < \pi/2$  において  $x$  が  $\theta$  について単調に増加する関数であるので,  $x$  を  $\theta$  に変換して

$$\begin{aligned} S_1 &= \int_0^1 y dx \\ &= \int_0^{\pi/2} \sin 2\theta \cos \theta d\theta \\ &= \left[ -\frac{2}{3} \cos^3 \theta \right]_0^{\pi/2} \\ &= \frac{2}{3} \end{aligned}$$

$\theta_1$  を  $\sin \theta_1 = \sqrt{1 - \frac{p^2}{4}}$  すなわち  $\cos \theta_1 = p/2$  ( $0 < \theta_1 < \pi/2$ ) をみたす値とする.

$$\begin{aligned} S_2 &= \int_0^{\sqrt{1-p^2/4}} (y - px) dx \\ &= \int_0^{\theta_1} \sin 2\theta \cos \theta d\theta - \left[ \frac{px^2}{2} \right]_0^{\sqrt{1-p^2/4}} \\ &= \left[ -\frac{2}{3} \cos^3 \theta \right]_0^{\theta_1} - \frac{p}{2} \left( 1 - \frac{p^2}{4} \right) \\ &= \frac{2}{3} - \frac{p}{2} + \frac{p^3}{24} \end{aligned}$$

$S_1 : S_2 = 2 : 2 - p^2$  より

$$\frac{2}{3} p^2 - 2 \left( -\frac{p^3}{24} + \frac{p}{2} \right)$$

$0 < p < \sqrt{2}$  に注意すると,  $p = -4 + 2\sqrt{7}$  を得る.

略解

3

(1)

$$f'(x) = \frac{(x^2 + x + 2) \cos x - (2x + 1) \sin x}{(x^2 + x + 2)^2}$$

$$\therefore g(x) = (x^2 + x + 2) \cos x - (2x + 1) \sin x$$

$$\therefore g'(x) = -(x^2 + x + 4) \sin x$$

$x^2 + x + 4 = (x + 1/2)^2 + 15/4 > 0$  より,  $g'(x) = 0 \iff \sin x = 0$  である.  $g(x)$  の増減表は以下のようになる.

$x$	0	...	$\pi$	...	$2\pi$
$g'(x)$		-	0	+	
$g(x)$	2	$\searrow$	$-(\pi^2 + \pi + 2)$	$\nearrow$	$4\pi^2 + 2\pi + 2$

$0 < x < \pi$  で  $g(x)$  は連続かつ単調に減少し,  $g(0) > 0$ ,  $g(\pi) < 0$  より中間値の定理から,  $0 < x < \pi$  で  $g(x) = 0$  となる  $x$  がただ1つ存在することがわかる. また,  $\pi < x < 2\pi$  で  $g(x)$  は連続かつ単調に増加し,  $g(\pi) < 0$ ,  $g(2\pi) > 0$  より中間値の定理から,  $\pi < x < 2\pi$  で  $g(x) = 0$  となる  $x$  がただ1つ存在することがわかる. したがって, 題意は示された.

(2)(a)

$$g\left(\frac{\pi}{4}\right) = \frac{1}{\sqrt{2}} \left\{ \left(\frac{\pi}{4} - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{3}{4} \right\} > 0$$

$$g\left(\frac{\pi}{2}\right) = -(\pi + 1) < 0$$

したがって, 中間値の定理より  $\pi/4 < \alpha < \pi/2$  が言える.

(b)

(1) で示した解のうち, 小さい方を  $\alpha$ , 大きい方を  $\beta$  とする.  $f(x)$  の増減を調べると

$x$	0	...	$\alpha$	...	$\pi$	...	$\beta$	...	$2\pi$
$f'(x)$		+	0	-		-	0	+	
$f(x)$	0	$\nearrow$	極大	$\searrow$	0	$\searrow$	極小	$\nearrow$	0

$0 \leq x \leq 2\pi$  で  $f(x)$  が最大となるのは  $x = \alpha$  のときであり,

$$M = f(\alpha) = \frac{\sin \alpha}{\alpha^2 + \alpha + 2}$$

である.  $g(\alpha) = 0$  より,

$$(\alpha^2 + \alpha + 2) \cos \alpha - (2\alpha + 1) \sin \alpha = 0$$

$$\therefore M = \frac{\sin \alpha}{\alpha^2 + \alpha + 2} = \frac{\cos \alpha}{2\alpha + 1}$$

(3)

$\pi/4 < x < \pi/2$  で  $\cos x$  は単調に減少するので,

$$\cos \alpha < \cos \frac{\pi}{4} = \frac{1}{\sqrt{2}}$$

また,  $\pi/4 < x < \pi/2$  で

$$2x + 1 > 2 \cdot \frac{\pi}{4} + 1 = \frac{\pi}{2} + 1$$

よって,

$$\frac{1}{2\alpha + 1} < \frac{1}{\frac{\pi}{2} + 1} = \frac{2}{\pi + 2}$$

したがって,

$$M = \frac{\cos \alpha}{2\alpha + 1} < \frac{1}{\sqrt{2}} \cdot \frac{2}{\pi + 2} = \frac{\sqrt{2}}{\pi + 2}$$

が成り立つ.